



# 化学研究所ウィークス -化研国際シンポジウム週間-

化学研究所では、グローバル研究ネットワークの強化に向けて、国際共同利用・共同研究拠点などを基盤とした国際シンポジウム開催を含む化学研究所ウィークス(ICR Weeks)を開催しました。これらのシンポジウムは化研国際共同利用・共同研究拠点の国際学術ネットワーク強化事業の一環でもあり、拠点の共催として開催されました。

化学研究所では、第4期中期目標・中期計画期間における部局の行動計画・年度計画に基づき、グローバル研究ネットワークの強化に向けた初めての試みとして「化学研究所ウィークス」を開催しました。3週間にわたって国際シンポジウムや公開講演会など、7つのイベントを実施しました。アジア・欧米各国からの参加者を含めて、延べ500名を超える参加者があり、有機化学・無機化学・生物化学などの幅広い化学関連分野における基礎研究から応用開発に及ぶ多くの成果が発信され、活発な議論が行われました。国内外の研究機関との組織連携ネットワークの構築や、グローバルに時代を拓く有為な若手人材の育成に大きく資する機会となりました。

副所長 栗原 達夫



化学研究所ウィークスの情報はこちらから



11 / 07 THU. - 11 / 09 SAT.



## The 3rd KU-UNIST Joint Symposium on Chemistry and Materials Science

開催場所：京都大学宇治キャンパス 共同研究棟大セミナー室  
世話人：教授 大木靖弘  
参加者数：約80名

11 / 07 THU. - 11 / 08 FRI.



## 4th Switzerland-Japan Biomolecular Chemistry Symposium (SJBCS2024)

開催場所：京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ  
世話人：准教授 中田 栄司/京都大学 エネルギー理工学研究所(委員長)、准教授 今西 未来、教授 二木 史朗  
参加者数：約110名

11 / 12 TUE.

公開講演会



開催場所：京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ  
世話人：教授 梶弘典、准教授 廣瀬 崇至  
参加者数：約100名



## "Writing for Impact"

講演者：Mr. Karl Ziemelis  
Chief Applied & Physical Sciences Editor, Nature



## "Insights into Scientific Writing and Publishing"

講演者：Dr. Natalie Lok Kwan Li  
Senior Editor, Nature Communications

11 / 12 TUE. - 11 / 15 FRI.



## 14th International Conference of Electroluminescence and Optoelectronic Devices (ICEL 2024)

開催場所：京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ  
世話人：教授 梶弘典、准教授 廣瀬 崇至  
参加者数：181名

11 / 15 FRI.



## ICR, Kyoto University Young Researchers Seminar -Meet Nature Energy Editor-

開催場所：京都大学宇治キャンパス セミナー室N-531C  
世話人：教授 若宮 淳志  
参加者数：約30名

11 / 21 THU. - 11 / 23 SAT.



## Japan-Taiwan Initiatives for Quantum Matters and Carbon Neutral: ICR-CCMS MoU Renewal Workshop

開催場所：国立台湾大学  
世話人：教授 島川 祐一、Director Ming-Wen Chu /CCMS  
参加者数：約50名

11 / 29 FRI.



## Shanghai-Kyoto Chemistry Forum

開催場所：京都大学宇治キャンパス 総合研究実験棟  
世話人：教授 上杉 志成、教授 大木 靖弘  
参加者数：24名

### 国際共同利用・共同研究拠点

## 2024年活動報告

国際共同研究ステーション長 小野 輝男

化学研究所は、「化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際グローバル研究拠点」として、平成30年11月13日より国際共同利用・共同研究拠点活動を推進しています。拠点活動として、第I期・第II期共同利用・共同研究拠点活動で培ってきました研究分野の広がりや深さならびに国内外での連携実績を基盤とし、その国際的ハブ機能を活用し、国際共同利用・共同研究の一層の促進、国際学術ネットワークの充実、国際的視野をもつ若手

研究者の育成に取り組んでいます。2024年度は国際共同利用・共同研究を引き続き推進するため、2023年度と同程度の67件(国際率49%)の研究課題を国際枠として採用しました。また、多くの研究者に議論の場を提供する国際会議・シンポジウム/研究会開催や、グローバルな最先端研究・教育と国際連携を支える研究者の育成・開拓をめざした若手海外派遣・受入事業を行っています。

### 若手研究者国際短期派遣事業・若手研究者国際短期受入事業

国際共同利用・共同研究拠点では、グローバルな最先端研究・教育と国際連携を支える研究者の育成・開拓をめざし、化学研究所に所属する若手研究者の国際短期派遣、ならびに、化学研究所教員をホストとする海外若手研究者の短期受入を柔軟かつ機動的に支援しています。コロナ禍が落ち着き、

以前のような交流が戻りつつあり、2024年は既に4名の国際短期派遣(オーストリア・ドイツ・オーストラリアへ)および8名の国際短期受入(ハンガリー・フランス・マレーシア・オランダ・台湾・ドイツ・イギリスより)を支援しました。